

やなかわ

YANAGAWA 2012. 12月15日
No.186

今号の内容 ページ

- ◆よかもんまつりは大盛況 2
- ◆償却資産申告は1月31日までほか 3
- ◆市民のひろば(4-5) ◆俳句(5) ◆情報わいど(6-9) ◆がんばったね(9-10) ◆もちぶみデビュー(11) ◆人権・同和教育シリーズ(12)



琴奨菊関 来年も頑張ってね

大相撲の大関琴奨菊関の母校、東宮永小学校で11月30日、琴奨菊関とのふれあいの会が催されました。児童全員で「九州場所の勝ち越しと婚約おめでとうございます。先輩は私たちの語りです」と琴奨菊関に大きな声でお祝いを述べました。その後、児童たちは腕相撲をしたり、質問を投げかけたりして交流。婚約者のどんなところが好きかを尋ねられた琴奨菊関は「優しいところや、体調のことなども考えてくれるところですね」と少し照れながら答えました。最後に琴奨菊関は「九州場所は苦しい場所でしたが、みなさんからもらった応援メッセージが励みになりました。来年はもっとけいこをして、皆さんの応援に応えたい」と抱負を語りました。

人権作文

人権について



昭代中学校 2年
あきは 梅崎 秋帆 さん

市内の小中学生が書いた人権作文を紹介します。

乗ってきて、私の隣に来られた。次々に他の人も乗ってきて、ぎゅうぎゅう詰めになってしまった。私はそのときに、車いすが場所をとるから、こんなにぎゅうぎゅうになるんだと冷たい視線を浴びせた。

そのときは何も思っていなかったけれど、人権学習でゲストティーチャーとして来られた大牟田障害者応援センターのAさんの話を聞いて、このことを思い出した。きっと、おじさんは歩けないこと以外は健常者とも何も変わらないはずなのに、あ

のとき私は車いすの人は後で混んでいない時に乗ればいいのにと思っていたのだ。

う。そして、その辛い思い出、悔しい思い出、悲しい思い出を乗り越えて生きてこられたのではないかと思つた。

私は、人権学習の中で、「障害」者も健常者も幸せになるために生きていこうと思つし、同じ人間であるというのを感じた。

これから私は、世界人権宣言の「すべての人間は生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利とについて平等である。人間は、理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神を持って行動しなければならぬ」という言葉を心に刻んで、「障害」者とか健常者とか考えず、分け隔てなくかわつていきたい。

そして、「障害」者と健常者との壁がなくなり、「障害」者という言葉が、「健常者の中の歩けない」。

「人」みたいな言葉が変わって、「障害」者という言葉がなくなつたらいいと思う。



【評】「障害」者問題について考えてくれました。誰でも自分と違う人に対して好奇の目で見たりするものです。秋帆さんは人権学習で学んだ、人間に上下はないこと、相手の立場に立って考える事の大切さを訴えかけてくれています。